

第 37 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日時 平成26年6月17日（火）10:00～11:15

2. 場所 一般社団法人 日本電気協会 4階A, B会議室

3. 出席者(敬称略, 順不同)

出席委員：宮野議長（日本原子力学会 標準委員会 委員長），金子（日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長），関村（日本電気協会 原子力規格委員会 委員長），波木井（日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長），宮口（日本機械学会 発電用設備規格委員会 幹事），新田（日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長），永田（日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長）

常時参加者：伊藤（原子力安全推進協会）

代理出席：大沢（電事連・富岡代理）

オブザーバ：小山田（日本機械学会 発電用設備規格委員会），大鳥（土木学会），愛川（日本溶接協会），船橋（火力原子力発電技術協会），浦田（日本電機工業会），成宮（日本原子力学会），川西（三菱重工）

日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局 高柳

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局 荒川，鈴木，大滝，芝，田村

(22名)

4. 配付資料

- | | |
|-------------|---|
| 資料 No. 37-1 | 第 36 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案） |
| 資料 No. 37-2 | 標準活動検討タスク 中間二次報告（案） |
| 資料 No. 37-3 | 原子力安全確保のための基本的な技術要件（議事要旨, 2014 春の年会資料, 2014 秋の大会（9/8-10）企画セッション提案書） |
| 資料 No. 37-4 | JSME 規格技術評価状況報告 |
| 資料 No. 37-5 | 第 1 回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム |
| 資料 No. 37-6 | 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要(案) |
| 参考資料-1 | 原子力関連学協会規格類協議会 名簿 |
| 参考資料-2 | 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱 |
| 参考資料-3 | 日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格 |
| 参考資料-4 | 一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況 |
| 参考資料-5 | 日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格資料 |

5.報告事項

(1) 委員変更, 常時参加者変更及びオブザーバ出席の紹介

事務局より, 常時参加者の変更及びオブザーバ, 代理出席者の紹介があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より, 資料 No. 37-1 に基づき, 前回議事録(案)について紹介があり, 原案通り承認された。

(3) 報告事項

1) 各学協会からの報告

各学協会から, 以下のとおり, 各学協会の活動状況の報告並びに, 規格・規準の制改定状況について報告があった。

i) 日本原子力学会

日本原子力学会より, 資料 No. 37-2 に基づき, 標準活動検討タスクの報告並びに, 資料 No. 37-3 に基づき, 原子力安全確保のための基本的な技術要件についての報告があった。主な質疑, コメントは以下のとおり。

- ・原子力学会では, 深層防護に関するワークショップを 8/22 に開催することとしている。HP へ掲載する予定。また, 「原子力安全の基本的考え方についての別冊 深層防護の考え方」を 5 月に発刊した。
 - ・日本電気協会のシンポジウムの近藤先生の基調講演において, 技術基準の体系的整備の方針の明確化が課題として挙げられた。原子力学会の活動は, この課題に対応するようなものと考えてよいか。
- 規格基準全体の体系化は以前から課題としてあり, 基本的な技術要件に関して, まずはたたき台として規制基準も含めて策定した。これをベースにして, 関係学協会, 規格類協議会を含めたオープンな場で議論していきたい。
- 体系化の議論と現状の規制基準のギャップなどを分析する場を, 学協会として次のステップとして考えないといけない。体系化を活かしていく必要がある。学協会だけで体系化の議論は難しく, 規制基準に関しても議論が必要と考えており, そういった面からも規格類協議会への規制の方の参加をお願いしたい。
- 議論できる場をつくっていきたい。シンポジウム, ワークショップ等を活用していきたい。
- ・SSR をベースにマトリックスを作っているが, これが規格類協議会の幹事会・作業会へインプットされると考えてよいか。検討結果はいつ頃出るのか。
- 次回の標準委員会で最終報告を予定しているため, その後, 規格類協議会へ提案したい。

ii) 日本機械学会

日本機械学会より, 資料 No. 37-4 に基づき, JSME 設計・建設規格 2012 年版及び材料規格 2012 年版に対する技術評価状況の報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・6/18 の原子力規制委員会において, 本件が審議される予定。審議後, 1 か月間のパブコメに付されると思われる。

- ・2012年版がエンドースされた場合、施行即適用になると、安全審査等に影響が出る可能性はないか。
- 施行時期については、困るのであれば相談が可能と聞いている。機械学会というより、事業者の話ではないかと考えている。機械学会としても、規格改定に伴うバックフィットの考え方等について検討したい。
- ・基準地震動が変わってプラント全体に影響が出るような話にも聞こえる。
- 米国のように複数年版の規格がエンドースされることを希望したい。

iii) 日本電気協会

日本電気協会より、資料 No. 37-5 に基づき、原子力規格委員会シンポジウムの開催についての報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・まずは、参加した頂いた方々に感謝したい。原子力規格委員会の今後の活動に反映することはもちろんであるが、パネルディスカッションの議論の内容は、規格類協議会の話も多々あるため、シンポジウムのまとめを行い、規格類協議会へ提案することとしたい。

2) 協議会幹事会からの報告

事務局より、資料 No. 37-6 に基づいて、原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要についての報告があった。質疑・コメントは特になし。

6. その他

- ・次回の協議会開催日時は、平成 26 年 9 月 12 日(金) 10:00 からとした。

以上